

学校名：藤沢市立秋葉台小学校

担当：5 学年

氏名：佐藤 大輔

1. 今回の研修における目的やねらい

「百聞は一見にしかず」アフリカや国際協力開発の現場をテレビやインターネットなどで見ることはできるが実際に目で見て肌で感じるものに勝るものはない。私が今回この研修に参加し生の体験をして、子どもたちに伝えることで日本の子どもたちに多様な価値観を持たせ、偏見をなくすことそれを目的に研修に参加させていただいた。

現地では、主に以下の3つの体験をしたいと思う。

- ① タンザニアの人々と触れ合い、人々の生活の様子、日本の共通点や違いを見つける。
- ② タンザニアで活躍している日本人の活動を視察する。
- ③ タンザニアでの開発の様子を視察し、実感する。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

9日間という短い期間であったが本当に多くの現場を視察することができ、内容の濃い時間を過ごすことができた。個人の旅行では行くことのできないような、国際協力の実際の現場を見ることができ、生の教材を得ることができたように思う。また、今回はホームステイの日を設定していただき、タンザニアの家庭で一日過ごすことで実際の生活の一端を体験することができた。

また、多くの人たちと触れ合うこともできた。タンザニアで活躍されている日本人の方々の熱意、タンザニアの人々の温かさを直接感じる事ができ、このような研修でしかできない生きた体験を多くすることができた。

3. タンザニアから学んだこと

タンザニアに行く前は困っていることが多く大変なのだろうというイメージだった。実際にタンザニアに行ってみると、人々はいつも笑顔でこちらを迎えてくれる。道を歩いていると「ジャンボ」「ハバリ？」とあいさつをしてくれる。

タンザニアは経済的に言えば最貧国に分類される国だ。一方で日本は豊かな国と言われている。「困っていることは何ですか？」と質問するとタンザニアの人は「特にない」という人が多かった。日本はなぜ自殺する人が多いのかと反対に聞かれた。

本当の豊かさとは何だろう？開発によって失われる豊かさもあるのではないかと考えるきっかけとなった。日本人が忘れてしまった人々の関わり合いや絆を学んだように思う。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

今回、数多くの現場を訪れ、本当にたくさんの人と会い、話を聞く事ができた。しかし、その膨大な体験、情報をただ単に伝えるだけでは「面白かった」「すごかった」という感想になりかねない。

教員として、今回の研修は子どもに生の体験を伝え身近に感じさせることができなければ意味がないと考える。授業に向けて子どもたちが理解できるよう情報を整理し、アフリカや開発について自発的に考えるような授業を考えていきたい。

そして、タンザニアと日本の共通点や違いを通して、多様な価値観をもたせ、アフリカや外国に

対する偏見やイメージを変えていきたい。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

個人では決して行くことのできない現場を数多く視察することができ、様々な角度からの教材を考えるきっかけを作ることができた。大変有意義な体験をすることができた。

また、今回の参加者は小学校、中学校、高校、養護学校と校種も教科も年齢も様々であった。そのため、毎日の振り返りではそれぞれ違った視点からの意見や考えを聞くことができ、自分の見識を広げることになったと思う。

研修をよりよくするためには、自分の反省でもあるが、事前にタンザニアのことや各訪問場所の歴史などをもっと調べて、質問事項をしっかりと準備してから行った方がより深い視点で見られように感じる。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

役割については前回、前々回の参加者の方々からの反省をもとに、分担していたのでスムーズだったように感じる。

視察場所によって各担当があり、毎日交代で日直を行うので、それぞれが挨拶や連絡に関わることもできたのは良かった。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

今回、私たちの意見を数多く取り入れていただき、多種多様な経験をすることができました。同行していただいた田中さん、現地(特にホームステイ)では JICA 事務所の足立さんに大変お世話になりました。

二度とすることのできないような体験をすることができたのも多くの方々の協力のおかげです。本当にありがとうございました。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

教員はいい意味でも悪い意味でもこだわりのある方が多いですが、この研修は全員がまとまらなければよりよいものにならなかったと思います。自分のやりたいことを実現しつつ、全体のことを考えた行動を取ることで、ともに助け合う姿勢が大切だと思います。

また、なによりも健康が大事だと思います。どれだけ注意をしても疲れがたまり、体調を崩すことがあると思います。時には次の日のためにしっかりと休養を取ることも必要です。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月11日(月) -12日(火)	日本からタンザニアまでの移動中および現地到着	羽田空港発という事もあり集合しやすく、スムーズでした。飛行機からみたダルエスサラームの街は高層ビルに埋め尽くされ、イメージと異なる印象だった。
8月12日(火)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	JICAのタンザニアでの活動を知ることができた。毎年7パーセントの経済成長を遂げているが、いまだ最貧国という事だった。経済成長が人々に与える影響はあるのだろうか。健康管理や安全管理をもう一度確認した。今一度気を引き締めていこうと思った。
8月12日(火)	本日の振り返り	初めての振り返り。タンザニアについての印象をそれぞれ出し合った、異なる視点で興味深かった。 次の日の内容を確認した。
8月13日(水)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	友成次長からタンザニアの開発の現状、歴史、これからの発展についての話をいただいた。 タンザニアの教育事情では問題がまだまだあるように感じたがどうなのだろうか。学校の視察で感じることができたらいい。
8月13日(水)	ザンジバルへ移動	フェリーでザンジバルへ向かった。 港は人が多く大変混雑していた。元々別の国であった、ダルエスサラームとザンジバルの違いを感じたい。
8月13日(木)	隊員との懇談会	次の日に行く予定のムナジモジャ病院の沢谷隊員ほか4名の隊員の方々と懇親会。活動の様子を聞くことができ大変有意義であった。
8月13日(水)	本日の振り返り	明日の視察の確認事項。ザンジバルについての感想を話し合った。
8月14日(木)	ムナジモジャ病院 沢谷隊員 活動視察	病院では入院している子どもたちと触れ合うことができた 日本から持ってきた折り紙を渡すと、喜んでくれてコミュニケーションを取ることができた。 リハビリ室では、沢谷隊員の活動を視察し、日本人がタンザニアで活躍する様子を見ることができた。
8月14日(木)	専門家との懇談会	崎山さんをはじめとするZAWAの職員の方々の話を聞くことができた。それぞれの仕事に対する姿勢や苦労など熱い話を聞くことができた。
8月14日(木)	ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察	ZAWA事務所で概要を聞いた。色々な部門があることがわかりそれぞれの施設を中心に視察した。 水道の始まりである湧水地を見学することができた。
8月14日(木)	本日の振り返り	今日の懇談会での話を伝え合った。ZAWAで働いている日本人の方々のタンザニアの人々と協力して育てていく姿は教育にも通じるものがあり、参考にしたい。

8月15日(金)	ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察	配水池や家庭の様子、ウォーターキオスクを視察した。 家庭でのインタビューなど水の流れの末端まで見ることができ、より理解が深まった。
8月15日(金)	ホームステイ先との交流	ID オフィスで働いているカリンバさんのお宅にホームステイをした。子どもたちと遊んだり、マーケット見学をさせていただいたりした。 夜にナイトクラブに行くことになるとは思わなかった。 一日過ごしてタンザニア人々の温かさ、食べ物・お風呂などタンザニアの家庭の生活を感じることができた。
8月16日(土)	ホームステイ先との交流	別のマーケットを回っていただき、服をプレゼントしていただいた。 言葉のあまりわからない私を温かく迎えてくださって感謝。 カリブ精神が素晴らしかった。子どもはどの国の子も変わらないと感じた。
8月16日(土)	教材購入	ザンジバルは観光地のため少し物価が高かった。教材に向きそうなものに目星をつけあまり購入しなかった。
8月16日(土)	本日の振り返り	メンバーのホームステイの様子を共有した。それぞれに生活の違いがあり興味深い。 全員の記録をまとめておくと、十分に教材になりそうな体験であった。
8月17日(日)	ダルエスサラームへ移動	船が結構揺れた。船酔いになる前に寝ればよかった。 昔ながらのダウ船とフェリーの比較が興味深い。
8月17日(日)	モロゴロへ移動	5時間位車で移動。ダルエスサラームを離れると高い建物がなくなり、風景が一変した。バオバブの木やサイザル麻の畑が見えた。
8月17日(日)	隊員との懇親会	稲村隊員と赤堀隊員との懇親会で学校や寮、住まいの様子を聞くことができた。学校によって違いが大きいことも知れた。 明日の視察がますます楽しみになった。
8月17日(日)	本日の振り返り	明日の交流について話し合った。歌ができるか明日にならないと分からないという事で、2パターン考えたのと唯一の交流なので夜遅くまで全員で話し合った。うまくいくといい。
8月18日(月)	キラカラ中等学校 稲村隊員 活動視察	まず施設見学をした。設備が整っていて驚いた。 まわっている際にも給食の準備をしている生徒と交流することができた。日本の女子の反応に共通するものがあった面白。 稲村隊員の授業はとても丁寧で分かりやすかった。しかしこのペースだと終わらないので、他の教員は板書をするだけの授業が多らしい。 交流の時間には、名前を日本語で書く活動をした。折り紙で飾り付けをしてとても喜んでくれたように思う。 会食をしながら現地の先生たちとも話をする事ができた。

8月18日(月)	ダルエスサラーム へ移動	約5時間車で移動。 途中、バオバブの木の前で集合写真をとった。 ダルに戻ると高い建物が増えモロゴロとの違いを実感した。
8月18日(月)	本日の振り返り	今日の学校の各グループでの活動報告と明日のTANESCOの予定について話した。
8月19日(火)	タンザニア電力供給公社(TANESCO)プロジェクトサイト視察	日本人の専門家の方々の苦労や熱意を聞くことができた。まったく何もないところからテキストやカリキュラムを作り今の状態までできているのは本当にすごいことだと実感した。 小田桐さん、長坂さんの熱い言葉を聞いて力をもらった。子どもたちに外国で頑張っている日本人がいることを紹介したいと思う。
8月19日(火)	教材等購入	ティンガティンガ村で教材購入。実際に描いている姿も見ることができよかった。数枚購入し子どもたちに見せたいと思う。 楽器や小物などタンザニアを紹介するのに役立つ教材を買うことができた。
8月19日(火)	本日の振り返り	購入した教材について、授業でどのように使用するのか出し合った。 明日の報告会についての説明。いよいよ研修も残りわずかだと感じた。
8月20日(水)	JICAタンザニア事務所 報告会	それぞれがタンザニアで得たこと、それをどう活かすか発表した。本当に多くの経験ができたことを再確認した。メンバーから多様な考えを聞くことができた。帰ってからも参考にしていきたい。
8月20日(水)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	大変気さくな方で、多くの質問に回答してくださった。その中で、国の代表としての大使の考え方、タンザニアの今後についての話を聞くことができた。
8月20日(水) -21日(木)	タンザニアから日本までの移動中および日本到着	日本の方が暑くて驚いた。 子どもたちもアフリカ＝暑いというイメージを持っているだろう。こういった固定観念を覆して心に残るような授業をしたいと思った。